

ジュダイカ・コレクションII

# 祈りの継承 ユダヤの生活と儀礼

## ◇ 展覧会概要

キリスト教の源流であるユダヤ教。しかし、我々日本人にとって、ユダヤ教はマスメディアによる報道や世界史の教科書などでたまに見聞きはしますが、決して馴染みが深いものとはいえません。ましてや、ユダヤ人の生活や習慣に触れる機会というのは、極めて少ないのが現状です。ユダヤ教の祭礼に用いられた美術工芸品「ジュダイカ(JUDAICA)」は、ユダヤ人の価値観や美術的志向を感じることができる資料です。また、ユダヤ教という宗教のみならず、歴史的、民俗学的な要素を含む非常に価値のあるものです。ジュダイカ・コレクションから中東文化圏を理解することは、国際化社会である今日においてとても重要です。本展覧会は、西南学院大学名誉教授関谷定夫氏のご協力を得てユダヤ人の生活の営みにスポットをあてたものです。祭礼・儀礼を支えた背景には、ユダヤの教えを守った日常生活がありました。発掘遺物をはじめ聖書考古学からユダヤ人の日常生活にアプローチするとともに、そこに根付いていた習慣や儀礼について「ジュダイカ」を通じて、今日まで連続と続くユダヤ教の実像に迫ります。

◎ 会期 / 2009(平成21)年11月10日(火)～2010(平成22)年1月16日(土)  
◎ 主催 / 西南学院大学博物館 ◎ 協力 / 関谷定夫氏(西南学院大学名誉教授)



## ◇ 展示構成

### I. トーラー ～ユダヤの『教え』～

聖書全体を指し、『教え』という意味をもつトーラー(TORA H)。トーラーは、ユダヤ人の生活の基本原理とされ、礼拝で用いられるトーラーは専門の書記によって手写された羊皮紙の巻物でなければならないとされました。そのため、ユダヤ教ではトーラー巻物に特別な扱いをしており、高価なアクセサリーや装飾品が考案されました。ユダヤ人の根底にあるトーラーを通じてみることで、生活意識を紹介いたします。

[主な資料] トーラー巻物、トーラーケース、冠、胸当て、ヤド

### II. ユダヤの生活 ～聖書考古学の世界～

イスラエルを含む中近東の古代都市遺跡を発掘すると、陶製のオイル・ランプが出土します。「ランプはランプと呼ばれる。人間の魂はランプと呼ばれる」と言われるように、ランプは古代の人々にとって、生命と幸福のシンボルとされ、また、最もポピュラーな日用品でもありました。ユダヤで鋳造された貨幣(コイン)や水差、小壺とあわせてみることで、日常生活を営むユダヤ人の姿が浮き彫りとなります。

[主な資料] オイルランプ、ユダヤコイン、水差、小壺、スピボン

### III. 儀礼 ～ユダヤの安息日と結婚～

人間にとって生活と隣り合わせのものが儀礼です。安息日は、ユダヤ人のなかで習慣として根付いており、金曜日の夕方のカバラット・シャバットの祈りの時に葡萄酒を飲むにあたり、キドシュ(聖別)という祝福の祈りが唱えられ、安息日最後の別れの儀式ハウダラーの時はスパイス(香料)をくゆらす儀式がありました。また、結婚にあたってもケトゥバー(契約書)を式当日に、新郎から新婦に手渡す習慣があるなど、儀礼からユダヤ人が守り続けた習慣を垣間見ることができます。

[主な資料] シャバット・ランプ、キドシュ・カップ、スパイス・タワー、ハブラセット、ケトゥバー(結婚誓約書)、結婚指輪

### IV. ユダヤ教会堂の姿(2F展示室)

ユダヤ教会堂には、多くのユダヤ人が集まり、宗教儀式のための礼拝堂として、また勉学の場に利用されました。ユダヤ教会堂の様子を窺い知れるものとして、入口付近に置かれて人々が喜捨を投じた「ツェダカー・ボックス」があります。また、柑橘類の実で秋のスコット祭で用いられた「エトログ・ボックス」は教会堂に持参されました。このような教会堂を取り巻く宗教道具から、当時のユダヤ教会堂の姿を見出すことができます。

[主な資料] エトログ・ボックス、ツェダカー・ボックス、ネル・タミード、メズーザ

## 行事予定

2009(平成21)年

11月14日(土)～15日(日) 地域共同企画 第1回健康ウォークラリー2009  
[場所] 西南学院大学博物館、元寇防塁ほか

11月14日(土)～12月1日(火)  
「行くよせいはいく～西南学院大学博物館の紹介～」  
[場所] 海の中道マリワールド

11月21日(土)15:30～17:00  
大津忠彦氏(筑紫女学園大学教授)  
「古代オリエント史におけるユダヤ」  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

11月28日～29日(日) 九州考古学会総会  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂、西南学院大学コミュニティセンターホール

12月5日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座①イントロダクション  
高倉洋彰氏(本学国際文化学部教授)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

2010(平成22)年

1月9日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座②テーマ「生月」  
中國成生氏(平戸市生月町博物館・島の館学芸員)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

1月19日(火)16:50～18:20  
学術講演会「イスラエルにおける政治と宗教～揺れるユダヤ国家～」  
[講師] 白杵 陽氏(日本女子大学教授・中東政治研究)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

1月22日(金)13:00～16:00  
九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プログラム(P&P)事業  
「展示理論と実践～学芸員と展示業者の対話～」  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

実践報告  
山本裕子氏(福岡アジア美術館学芸員)  
「近現代美術の展示について～福岡アジア美術館の場合～」  
安高啓明氏(西南学院大学博物館学芸員)  
「歴史系博物館の展示～ストーリーを伝えるには～」  
岡崎美彦氏(北九州市立自然史・歴史博物館学芸員)  
「自然史系博物館の大空間展示」  
講演  
岡 大輔氏(株式会社環境デザイン機構)  
「関係をつくる空間の作り方」  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

1月23日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座③テーマ「五島」  
安高啓明氏(本学博物館学芸員)  
齋藤大輔氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程研究生)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

2月13日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座④テーマ「韓国」  
早瀬遼子氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程)  
矢羽田朋子氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

2月27日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座⑤テーマ「中国」  
駄田井直子氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程)ほか  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

3月13日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座⑥テーマ「琉球」  
宮崎克則氏(九州大学総合研究博物館准教授)  
田畑美香氏(九州大学大学院比較社会文化学府博士前期課程)  
大部志保氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程研究生)  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

## 西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室  
URL http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/

● 開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]  
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

## 来館者掲示板

西南の創立者ドージャー先生の事が知れてよかったです。聖書のことやその歴史がよく分かりました。  
(2009/07/07 女性 65歳)

——西南学院出身など関係なく、多くの方に知っていただくことが出来て光栄です。

今日は3回目ぐらいだけど、たのしかったです。オルガンなどもすぐてまたきたいです。  
(2009/09/19 Y・Y&Y・M 12歳)

——ありがとう!パイプオルガンは珍しいものですよ。またいつでも来て下さいね。

とても雰囲気がよかったです。この建物をいつまでも大切に残して下さい。  
(2009/09/24女性 20代)

——スタッフ一同、同じ思いでございます。今後も地域の皆さんと一緒に大切にしていきたいです。

日本におけるキリスト教の受難の歴史の一端がうかがわれて、勉強になりました。また来ます。  
(2009/10/10 男性 40代)

——魔鏡などは大変貴重な資料です。ぜひまたいらしてください。

——皆さん、貴重なご意見、ご感想ありがとうございます。来館者の方々からお声を頂けることがなによりも嬉しいことです。今後もこの建物を地域の方々と一緒に大切に残していきたいと思っております。皆さんいつでも気軽にいらしてください。  
(博物館スタッフF・Kより)



## アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄: 福岡空港 → 西新駅下車...約17分  
博多駅 → 西新駅下車...約12分  
天神 → 西新駅下車...約8分  
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- バス: 博多駅バスター → 修験館前...約35分  
天神 → 修験館前...約20分  
※修験館前・バス停から徒歩5分
- タクシー: 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分  
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分  
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

# News

## 西南学院大学博物館ニュース

Volume 01 2009.11

▼ 西南学院大学



キリシタン魔鏡  
【西南学院大学博物館所蔵】

## 特集 信仰はこうして守られた... キリシタン魔鏡

ごあいさつ

博物館紹介⑩ 西南学院大学博物館(ドージャー記念館) ～今日に伝わるヴォーリズ建築～

秋季特別展「ジュダイカ・コレクションII 祈りの継承～ユダヤの生活と儀礼～」

所蔵品紹介 ～キリシタン魔鏡～

大学博物館紹介① ～九州大学総合研究博物館～

大学周辺情報① ～元寇防塁～





ごあいさつ



西南学院大学博物館長 高倉洋彰

西南学院大学博物館は2006年5月の開館以来4年目を迎えています。小規模な博物館ですが、キリスト教主義教育に基づいた教育を行っております本学にふさわしく、キリスト教文化に視点を特定したユニークな博物館として、年々評価を増してきています。評価には、1921年に当時の西南学院本館としてウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計しました建物自体が発します歴史の重みと荘厳さに負うところも大きいのですが、年2回の企画展や公開講座・講演会・学会・音楽会などの、この規模の博物館としては例外的に活発な博物館活動によることも多いと考えています。

しかしながら、本館の展示や講座・講演会をはじめとする多種多様な活動はもちろん、本年度内の博物館相当施設への指定申請の準備や市内の博物館を有する九州大学および九州産業大学との連携の深まり、本年度から開始しました博物館実習などの情報を、これまで皆様にあまよお伝えできておりませんでした。

このような本館の活発な活動(たとえばこれから開催します企画展や公開講座などの情報)を皆様にお伝えし、あるいは活動の結果をきちんとご報告することによって、本館の「今」を十分にお知らせするのを強く感じておりました。そこで、本館の活動の最新の情報をいち早くお知らせするために、ニューズ・レターを刊行することにいたしました。

本館の活動をご理解いただき、ご支持、ご協力をいただきますために、本紙をその一助にいただければ幸いです。

SEINAN GAKUIN  
1920

博物館紹介 ①

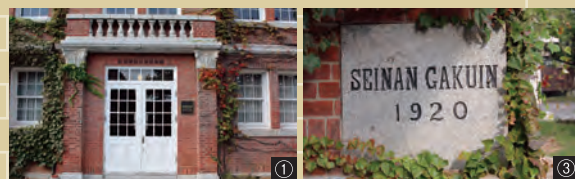
## 西南学院大学博物館 (ドージャー記念館)

～今日に伝わるヴォーリズ建築～



本学博物館は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズにより1921年に竣工され、長く、西南学院本館として利用されていた建物です。2000年に福岡市都市景観賞を受賞、2004年には福岡市有形文化財に指定され、2006年5月13日に大学博物館として生まれ変わりました。博物館はジョージアン・コロニアル・スタイルという建築様式で、建物の形状や窓の配置が左右対称、窓周りには装飾を加えるなどして重厚感のあるデザインとなっています。

1階は展示室や事務室、館長室、2階は緩やかな弧を描く三芯アーチをそなえた講堂、3階はギャラリーとなっています。2階・3階の木造床の隙間にはコークス(石炭を蒸し焼きしたもの)を積み、防音のための工夫がなされています。また、窓ガラスは手作りで表面のゆれ具合など当時の面影を残しています。レンガ積みの外壁でクラシカルな装飾は、西南学院関係者はもとより、西新地区においてもシンボリックな建物として、多くの方に親しまれております。夜にはライトアップされ、昼間とは違った姿となります。



- ①博物館入口
- ②東キャンパス中央から博物館を臨む
- ③定礎石
- ④夜間ライトアップされた博物館



所蔵品紹介

## キリシタン魔鏡

密かに信仰していたキリスト教徒の心情。



一見すると普通の鏡ですが、光を照射すると壁に十字架上のキリスト(キリスト磔刑)とこれを拝む横向きの聖母マリアが浮かび上がります。

このような仕掛け鏡を「魔鏡」といいますが、中国では漢代(紀元前2世紀頃～2世紀)から透光鏡と呼ばれる鏡が作られていました。鏡面にわずかな凹凸を付けて壁面に画像を写すのは、当時の非常に高い技術力を示すものです。背面の文様と異なるものを浮き上がらせたのは、当時の人々を驚かせたことでしょう。

現在、キリストをモチーフとした魔鏡は少なく非常に貴重なものです。キリシタン魔鏡は、江戸幕府の禁教政策を背景に作製されたものと考えられます。島原・天草の乱で原城に籠城したキリシタンたちの行為を重くみた江戸幕府は、キリスト教の信仰を厳禁とする政策を打ち出します。踏絵や宗門改などは当時の禁教政策を代表するものです。こうした江戸幕府の禁教政策が徹底されていたことを示すと同時に、密かに信仰していたキリスト教徒の姿がこの資料に集約されています。

## 学芸員の眼 - 展示 -

“展示には学芸員の意向が反映されている”。博物館や美術館で行われている展示は、ただ漠然と資料・作品を並べているのではなく、担当学芸員が何を伝えたいか、何度も試行錯誤しながら展示プランを組み立てています。展示の仕方によって、学芸員の想いを感じることほもちろん、力量までみてとれます。照度や温湿度に気を付けることはいうまでもなく、資料の見せ方には学芸員の“こだわり”がみられます。今年から博物館実習が始まりましたが、実習生たちに博物館の役割や学芸員の仕事の内容などを少しでも理解してもらえたらと思います。実習を通じて身につけた学芸員の視点で今後、博物館・美術館を訪れて欲しいと思います。町に一人でも多くの玄人が増え、博物館を盛り上げてくれることを期待します。

博物館学芸員 安高啓明

## スタッフの声

「キリスト教を教育の基本理念とする西南学院大学の付属機関として、キリスト教文化、教育文化、地域文化等の発展と普及を実物資料によって示し、大学教育のみならず、地域に根差した施設として地域文化の向上と生涯学習の実践に貢献する。」という当館の目的が達成できるよう、利用者の皆さんからの様々な声を、館長、学芸員の企画運営に結びつけるためのパイプ役・潤滑剤としての役割を果たすべくスタッフ一同、日々努めています。お気づきのこと、要望事項等がございましたら遠慮なくお声をかけてくださるようお願いいたします。

博物館事務室職員 山田能久



日本キリスト教コーナー



聖書の写本コーナー

時系列的な変遷が視覚的かつ簡単にわかるように資料を陳列しています。



## 博物館通信 博物館実習

8月から9月にかけて、10日間にわたって博物館実習がありました。本学学生3名が実習に参加し、資料の取り扱いや梱包作業、展示手法、企画展の作り方など学芸員になるための基本作業から実務研修を行いました。また、フィールドワーク実習など館外活動も行ない、学芸員の仕事の内容を深めてもらえたものと思います。

博物館実習の成果として、海の中道マリワールドで11月14日(土)から12月1日(火)まで実習生3人による展覧会「行こうよせいはいく—西南学院大学博物館の紹介—」を開催します。

[博物館実習に参加して] ..... 今回の実習の前に、授業で収蔵品の取扱い方や展示する際の注意点を学びました。しかし実習で、実際に収蔵品を前にするとわからないことばかりで戸惑いました。その時に指導学芸員の方に怖がらず積極的に取り組んでほしいと助言を頂き、貴重な体験ばかりで学ぶことの多い2週間となりました。 (文学部4年 江平のぞみ)

実習は大変楽しく、2週間の実習期間があつという間に過ぎてしまいました。特に実践実習が多く、机上ではわからないことを体験することができました。資料の取り扱い方や展示の方法など、学芸員としての視点を教わりました。 (国際文化学部4年 下川裕末)

学芸員実習を通して、講義だけではわからなかった学芸員の仕事の魅力と同時に、社会的責任の伴う厳しい仕事だと実感しました。また、実際に資料に触れ、調書をとるなど他の博物館ではできないような体験をさせて頂き、大変充実した実習となりました。安高先生にとっても感謝しています。ありがとうございました。 (国際文化学部4年 松吉有希)



## 【大学博物館紹介①】 九州大学総合研究博物館

2000年4月1日に発足した総合博物館。学内で分散していた資料を統一したシステムのもと標本やデータの提供を行ない、教育・研究において多角的、効率的活用を図る大学組織としての機能をもたせた施設です。また、教育・研究成果を社会へ紹介し、行政や博物館との連携、地域住民の生涯学習を支援することを理念としています。学外からも博物館ホームページより、記録資料・考古遺物・植物・昆虫・地学・海洋生物・動物・医動物のデータベースが利用できます。

大学全体で約750万点の学術標本とともに、考古学資料や中世から近代に至る古文書類も所蔵しています。そして脊椎動物骨格標本や古人骨資料、福岡植物研究会コレクションなども収蔵しています。常設展示室には、所蔵する考古学資料、記録史料、化石標本、岩石・鉱物標本、動植物標本、昆虫標本、技術史資料のなかから貴重な資料を選んで展示されています。キャンパス内には旧帝大時代に建設された重厚な建物がたくさんあります。

九州大学総合研究博物館  
連絡先 / 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
TEL&FAX.092-642-4252  
URL http://www.museum.kyushu-u.ac.jp



## 元寇防塁

【大学周辺情報①】  
本学1号館

【公開時間】月曜日～金曜日:午前9時～午後5時

本学1号館では、元寇防塁を復元・保存し一般公開しています。元寇防塁とは、鎌倉幕府が文永の役後に元の再襲来に備え、九州各国の御家人に命じ築かせた防衛施設です。博多湾沿岸の今津から香椎まで約20kmに渡って築かれました。各国分担で短期間に作られたので、分担国によって築造の方法が異なっています。

1999年の調査で、西新・百道地区(分担国不明)では、石塁と土塁の二列構造になっているという新事実が明らかになりました。石塁は2.4m、土塁は1.3mの高さに復元されており、当時のスケールを体感できます。また、本学体育館の南側にも国指定史跡の元寇防塁が保存されています。ご見学の際はあわせてご覧下さい。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程 貞清世里